



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2007

8月31日号

104
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

アドバンスドセミナーを終えて



副会長 鈴木 憲二

参議院選挙も終わり、日本放射線技師連盟の推薦を受けた日本歯科技工士会会長、中西しげあき候補は残念ながら当選にはいたらなかった。選挙前には仕事にもかかわらず携帯電話で参議院選挙へのご協力をお願いしたところ福島県放射線技師会会員の皆様には電話の内容を快諾していただき感謝しております。

また今年度、福島県放射線技師会で予定していたADセミナーも7月29日開催の医療安全学で終了することができました。今回のADセミナー参加者は救急医療学が37名、医療安全学が43名で平成17年度開催のADセミナー参加者（医療安全学、医療学、看護学）各々約120名と合わせると福島県放射線技師会員の約3割の方が受講したことになり、受講者数では全都道府県放射線技師会と同等な割合であり、ほぼ収束してきているものと思われる。

6月4日付けの日放技からの事務連絡の中で、ADセミナー開催方法の変更についての連絡がきた。免許更新制度を見据え19年度上半期をもって地方開催を終了し、在宅学習と本部実施との併行するセミナー方策に改革し10月1日から実施するとしていた。しかしながら各都道府県技師会においては平成19年度事業計画の中で10月1日以降にADセミナー開催を計画している放射線技師会が20府県もあり、8月6日付けの事務連絡では年度内の各都道府県技師会での地方開催は可能となったが、試験合格者が年度内に技師格申請ができるように、従来のADセミナー認定試験日の平成20年3月2日から平成20年2月3日に変更になった。また今年度前期のADセミナー認定試験は予定通り10月7日に福島県立医大第2臨床講義室で開催予定である。

来年度からはメディア講習での在宅学習か本部実施のADセミナー講習会かを選択するようになるが、放射線技師会会員の3割しか持ってないアドバンスド放射線技師格が免許更新に必要なかどうかは現在のところわかっていない。

先にメディア講習となった放射線機器管理士、放射線管理士の受講料も安くはなく、多くの受講者がいた地方開催よりも高めに設定されており、今後予定しているADセミナーのメディア講習の受講料は安価とし、多くの会員が広い知識を修得する場となるように配慮をお願いしたい。

これからの生涯学習は地域住民に寄与できる医療水準を保つための学習であり、各々の会員が自覚を持って修得したものは、必ず地域住民が恩恵を被るものと思われ、そのためにも福島県放射線技師会の主催する各種研修会に参加され放射線技術の向上に努めていただきたい。

合同委員会開催される

福島県放射線技師会の合同委員会が、平成19年6月24日に福島県立医大で開催された。

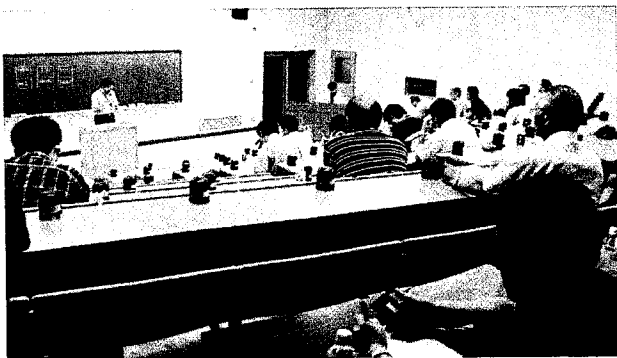
2年に一度の改選期で県技師会の業務を担うことになった、全役員、全委員会のメンバーが一同に集まり、今後の方針を話し合う、恒例の行事となっている。

開かれたのは、精度管理、調査、学術、編集広報、ネットワーク、生涯教育、財務の各委員会で、全体会議では会長の挨拶の後、福島県放射線技師会としての基本的な方針やスケジュールが示された。

その後各委員会に分かれの個別討議となった、委員会によっては参加したメンバーが少なく、十分な検討が出来なく持ち越しとなった委員会もあったが、今期の活動内容が討議された。特に今期から県本部と各支部の収支報告を統一化することを目指しており、財務委員会では各支部の会計担当者が集まり真剣な話し合いが行われていた。

個別会議の後、全体会議が行われ各委員会から今期の活動方針が報告された、編集広報や学術は活動内容がほぼ定まっており、明確な方針が示されたが、精度管理や調査は大まかな方向を示すにとどめ、詳細はさらに検討を重ねることになった。

今回の合同委員会は準備期間が短いこともあって、例年に比べるとやや参加者が少なく感じられたが、集まったメンバーは長時間にわたり熱心に討議を重ねていた。

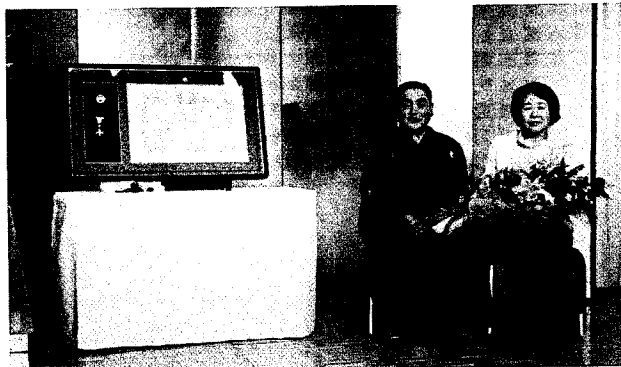


渡部浩一郎氏 瑞宝双光章受章祝賀会開催

7月1日(日)南相馬市のホテルラフィーンにおいて、南相馬市立病院の前技師長である渡部 浩一郎氏の瑞宝双光章受章祝賀会が福島県放射線技師会浜通支部の主催により開催されました。

浜通支部役員をはじめ各支部から渡部氏に縁の深い関係者53名の方々がお祝いに集まり、盛大な祝賀会となりました。八巻浜通支部長の発起人挨拶に始まり、片倉会長、伊藤事務局長、渡辺南相馬市長から、長年の技師会

及び保健衛生の向上のためにご尽力された渡部先生の多くの業績を称えるお祝いの言葉が述べられました。渡部氏からは謝辞が述べられ、旧原町市立病院から現在の南相馬市立病院へ移転までの、思い出や苦勞したことなどが語られました。最後に県技師会馬場理事により正調万歳三唱にて閉会となりました。(花井)



平成19・20年度 社福島県放射線技師会 委員会名簿

総務企画			精度管理		
片倉 俊彦			吉田 豊	白河厚生	
斎藤 康雄	坪井		斎藤 重夫	協会	
鈴木 憲二	医大		松井 大樹	北福島	
斎藤 重夫	協会		古川 徹	栞記念	
八巻 昭一	磐城共立		菅野 修一	田村市立	
吉田 豊	白河厚生		木村 聡	星	
白川 義廣	竹田		奈良坂真弘	会津中央	
伊藤 陸郎			遠山 和幸	会津総合	
			比佐 賢一	福島労災	
			栗田 祐治	公立相馬	
調 査			学 術		
富塚 光夫	太田		新里 昌一	太田	
長川 正良	渡辺		白川 義廣	竹田	
古川 義一	かしま		山田 隆弘	会津中央	
富原 弘之	日赤		佐藤 孝則	医大	
永山 誉人	二本松		佐藤 佳晴	藤田	
山口 大	寿泉堂		白石 嘉博	星	
国分 信行	須賀川		田代 和広	白河厚生	
目黒 昭夫	喜多方		足利 広行	竹田	
松枝 直宏	竹田		工藤 靖之	会津中央	
船生 晴雄	松村		佐藤 龍一	市立常磐	
石井 博	市立常磐		中原 直人	渡辺病院	
編集広報			ネットワーク		
今野英麻呂	日赤		遊佐 烈	医大	
八巻 昭一	磐城共立		森口 節男	藤田	
佐藤 靖芳	大原医療		遊佐 雅徳	医大	
池田 正光	医大		阿部 智	大原医療	
幕田 節男	塙厚生		福田 和也	公立岩瀬	
本間 妙	南東北		濱端 孝彦	坪井	
森谷 辰裕	猪苗代		鈴木 雅博	竹田	
原田 博	協会		名城 敦	磐城共立	
鈴木 規芳	呉羽		村上 薫	小野田	
花井 辰夫	南相馬市立				

財 務			生涯教育		
馬場 栄二	福田	佐藤 政春	星		
鈴木 憲二	医大	斎藤 康雄	坪井		
外山 慎	協会	佐藤 孝則	医大		
渡辺 和夫	熱海	佐藤 二郎	協会		
星 剛志	入澤病院	飯野 克郎	南東北		
草野 義直	磐城共立	中里 史郎	桑野協立		
		山下 朋廣	竹田		
		平塚 幸裕	会津総合		
		渡辺 一啓	福島労災		
		堀江 常満	雲雀丘		

【浜通り支部】

支 部 長	八卷 昭一	(市立総合磐城共立病院)
副 支 部 長	長川 正良	(渡辺 病院)
副 支 部 長	古川 義一	(かしま病院)
監 事	堀江 常満	(雲雀ヶ丘病院)
監 事	石井 博	(いわき市立常磐病院)
理 事	栗田 祐治	(公立相馬病院)
理 事	渡辺 一啓	(福島労災病院)
理 事	船生 晴雄	(松村総合病院)
理 事	嶋田 峻二	(南相馬市立病院)
理 事	村上 薫	(小野田病院)
理 事	鈴木 規芳	(呉羽総合病院)
会 計	草野 義直	(市立総合磐城共立病院)

平成19・20年度 支部役員

【県南支部】

支 部 長	吉田 豊	(白河厚生総合病院)
副 支 部 長	富塚 光男	(太田西ノ内病院)
副 支 部 長	佐藤 正春	(町立三春病院)
監 事	新里 昌一	(太田西ノ内病院)
監 事	飯野 克郎	(総合南東北病院)
常 任 理 事	渡辺 和夫	(太田熱海病院)
常 任 理 事	白石 嘉博	(星総合病院)
常 任 理 事	斎藤 康雄	(坪井病院)
常 任 理 事	幕田 節男	(塙厚生病院)
常 任 理 事	中里 史郎	(桑野協立病院)
理 事	本間 妙	(総合南東北病院)
理 事	福田 和也	(公立岩瀬病院)
理 事	菅野 修一	(田村市立都路診療所)
理 事	田代 和広	(白河厚生総合病院)
理 事	山口 大	(寿泉堂総合病院)
理 事	濱端 孝彦	(坪井病院)
理 事	木村 聡	(星総合病院)
理 事	国分 信行	(須賀川病院)

【県北支部】

支 部 長	斎藤 重夫	(福島県保健衛生協会)
副 支 部 長	佐藤 勝美	(福島医大)
副 支 部 長	森口 節男	(公立藤田総合病院)
理 事	今野英麻呂	(福島日赤病院)
理 事	佐藤 孝則	(福島医大)
理 事	佐藤 佳晴	(公立藤田総合病院)
理 事	佐藤 靖芳	(大原医療センター)
理 事	池田 正光	(福島医大)
理 事	富原 弘之	(福島日赤病院)
理 事	遊佐 雅徳	(福島医大)
理 事	松井 大樹	(北福島医療センター)
理 事	古川 徹	(枳記念病院)
理 事	外山 慎	(福島県保健衛生協会)
理 事	永山 誉人	(社会保険二本松病院)
理 事	佐藤 二郎	(福島県保健衛生協会)
理 事	本田 正治	(福島県保健衛生協会)
理 事	阿部 智	(大原総合病院医療センター)

【会津支部】

支 部 長	白川 義廣	(竹田総合病院)
副 部 長	山田 隆弘	(会津中央病院)
副 部 長	渡部 育夫	(県立会津総合病院)
会 計	星 剛志	(入澤病院)
事 務 局	松枝 直宏	(竹田総合病院)
会 計 監 査	坂本 弘道	(磐梯町健康医療福祉センター瑠璃の里)
会 計 監 査	秦 昭吉	(県立宮下病院)
厚 生 委 員	奈良坂真弘	(会津中央病院)
厚 生 委 員	星 寿郎	(高田厚生総合病院)
厚 生 委 員	吉川賀津江	(飯塚病院付属有隣病院)
厚 生 委 員	遠山 和幸	(県立会津総合病院)
学 術 委 員	工藤 靖之	(会津中央病院)
学 術 委 員	穴澤 明弘	(坂下厚生総合病院)
学 術 委 員	金田 昭二	(県立会津総合病院)
マンモ専任	水谷 純子	(竹田総合病院)
編 集 委 員	原田 博	(保健衛生協会会津地区センター)
編 集 委 員	森谷 辰裕	(猪苗代町立猪苗代病院)
表 彰 委 員	佐藤 孝志	(自宅)
顧 問	中丸 俊一	(佐藤病院)



県 南 支 部

* 県南支部「サマーセミナー」開催される *

去る7月21日(土)PM3:00より、郡山ビックアイ市民プラザ7F 第3会議室において下記の内容にて県南支部サマーセミナーが開催された。週末の曇り空にもかかわらず40名の参加を持ち、冒頭に吉田支部長からの挨拶をいただき時間通り開始した。

【教育講演】

FCRマンモグラフィー画像処理と品質管理

FUJIメディカル株式会社

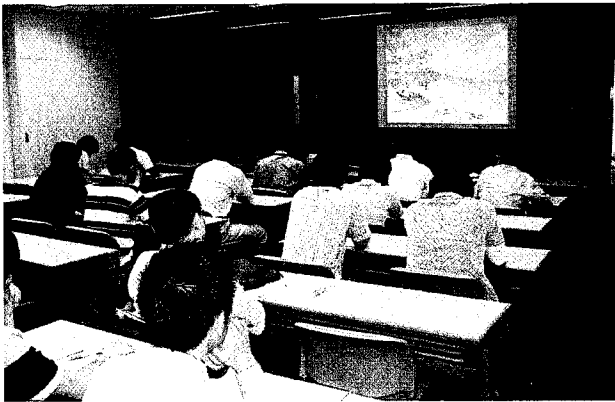
【技術講演】

デジタルマンモグラフィの現状と今後の展望

GE横河メディカルシステム株式会社

FUJIからは、CRの画像作成に使用されている様々なパラメータをより知りより賢く使って診断にプラスになる画像とする為、基本的なパラメータの画像に対する影響に関して説明していただいた。

GEからは、乳癌の現状と言う事で先進国の中で日本だけが乳癌死亡率が上昇している現実があり、乳癌死亡率減少の一翼を担っている放射線技師としてもその実現の為に努力して行く必要性を感じた。次に間接変換方式であるFPDのマンモ装置の説明から今後の展望としてCAD・トモシンセシスまでの話を頂いた。各テーマともに、活発な意見交換を行う事が出来た。その後は場所を変え納涼会へと移った。料理を楽しみながら講師へのさらなる質問、会員の親睦をはかった。会員の中にはかなり夜遅くまで親睦を深めた方もいたようだ。(幕田)



県北支部

福島県医用デジタル通信技術研究会の開催

第10回福島県医用デジタル通信研究会の講演会が8月18日(土)杉妻会館で、下記の通り開催されました。

プログラム

1、「ヨード造影剤と造影剤腎症」

日本シェーリング(株)診断薬事業部 長嶺 雅明

2、「HD-DVDの技術動向と、医療への応用の可能性について」

座長 福島県立医科大学 放射線部 遊佐 雅徳

東芝メディカルシステム(株)SI事業部 長田 雅和

終了後には、県北技師会の暑気払いが行われた。この日、外は大変に暑かったためビールもすすみ、会場は日頃の話題で大いに盛り上がっていたようでした。

会津支部

第65回会津画像研究会開催される

平成19年7月27日(金)、(財)竹田総合病院におきまして、第65回会津画像研究会が開催されました。

はじめに話題提供として、腹部から下肢にかけてのMRAにおける造影剤使用の追加承認に関して報告がありました。結果だけを述べると、従来と比べて倍量投与が可能になったことにより、下肢領域MRAでは格段により画像が得られるようになり、またIADSAと比較しても

診断に非常に有用な結果が得られたとのことでした。CT-Angioのように被曝の問題がない分、今後は適応がますます増え、様々な報告が出てくると思われます。

もう一題は「デジタルマンモグラフィの現状と今後の展望」と題して、CADを含めたマンモグラフィの動向を教えてくださいました。現在日本では、マンモグラフィ検診が国をあげて大々的に推し進められており、認定資格取得や精度管理の徹底などが普及していますが、いまだアナログ撮影の部分しか整備が進んでません。医療のデジタル化が進むとともにマンモグラフィのデジタル化も避けられない以上、デジタルマンモグラフィの精度管理ガイドラインの提示が待たれるところです。また、アナログ撮影に比べて患者一人に対する撮影効率もよく、モニター診断が加われば自現機やフィルム代などのコスト削減にもつながり、放射線科分野として、社会的なこととして、今後も目の離せない分野のひとつでもあります。

(森谷)

浜通支部

いわき地区画像研究会開催される

平成19年7月11日(水)いわき市立保健センター多目的ホールにおいて、いわき地区画像研究会が開催されました。この研究会は以前、いわき地区勉強会として開催されていましたが、運営がしばらく滞っていました。今回、4月の役員改選を期に新たにいわき地区画像研究会として生まれ変わりました。

第一回目は「CTの被ばく線量(基礎から測定法まで)」という演題で講師に東芝メディカルシステムズの新井信夫先生、また、福島労災病院放射線科の佐藤貴晃先生にそれぞれご講演を頂きました。

新井信夫先生には放射線の人体に与える影響や放射線発生装置の安全な取り扱いについて分かり易い説明して頂き、また、CTDIについても理解しづらいところこまごまで細かくお話を頂きました。佐藤貴晃先生には県放射線技師会のCTビギナーズセミナーで実際におこなわれた測定法について分かり易い説明がありました。

参加人数は30名強とまだまだ少ないですが、これからも定期的に開催する予定ですので多数の参加を期待しています。

(鈴木)

編集後記

連日にわたって猛暑が続いた今年の夏。

家族や友人と海や山へ、また夏休みを利用してじっくりと自己研鑽に励んだ方も…。一方では「仕事が忙しくて夏休みなんてとれないよ」という方もいたのではないのでしょうか。

皆さんはどんな夏を過ごされましたか? 夏も終わり、これからは心身ともに切りかえて新たなスタートをしていきたい。

(池田)